

支店長の
視点

長江 敬氏



先月まで日曜日の夜に放送されていたTVDドラマ「半沢直樹」をご覧になっていた方も多いのではないかと思います。私もその一人ですが、中でも注目していたのは、主人公の半沢直樹や大和田取締役もさることながら、金融庁の黒崎主任検査官です。

というのも、一般にはあまり知られていませんが、日銀でも、金融機関に立ち入り、収益力やリスク管理の状況を検証する審査という業務を行っており、私自身が数年前まで携わっていた経験があるからです。

その審査の機会や、当地赴任後の地域金融機関トップとの議論を通じて改めて感じるのは、ドラマの中で人事抗争に明け暮れる東京

地域金融機関への期待

中央銀行とは異なり、地元
の金融機関が非常に厳しい
経営環境に置かれているこ
とです。低金利環境の長期
化に加え、地域の人口や企
業数の減少といった構造要
因が背景にあります。

こうした中であっても、
地域経済の活力を高めてい
く上で、地域金融機関が果
たし得る役割は、非常に大
きなものがあります。実際、
今回のコロナ禍でも、県内
の多くの企業が地域金融機
関に支援を求めています。
これに対して、各銀行・信用
金庫の積極対応もあって、
これまでのところ経営に行
き詰まる企業が限定的とな
っているのも事実です。

今後も各行庫が地域で求
められる役割を果たしてい
くには、金融機関自身の経
営が盤石であることが大前
提です。そのためには厳し
い環境下でも、収益力を着
実に強化していく必要があ
ります。地元各行庫がどの
ような経営戦略を展開して
いくのか、次の一手に注目
していきたいと思えます。